

## 中学校社会科（歴史的分野）学習指導案

単元名 横浜ゆかりの御家人 ～平子氏の姿～	内容のまとめり B 近世までの日本とアジア (2) 中世の日本 (イ)武家政治の展開と東アジアの動き
-----------------------------	--

### 1 単元目標

- ・ 横浜に縁のある鎌倉時代の御家人一族が活躍していたことを理解し、史料の読み取りや活用の技能を身につける。
- ・ 平子郷（磯子区あたり）に本拠地を置いた平子氏の活動について、多面的・多角的に考察し、系譜の一端や活動範囲の拡大したことを適切に表現する。
- ・ 史料を粘り強く読み取りながら横浜に縁のある御家人がいたことへの関心を高め、平安末期から室町時代にかけ武士がたくましく生きていたことを、主体的に追究しようとする態度を養う。

### 2 単元を通して身に付けさせたい資質・能力

本単元は鎌倉幕府の仕組みを理解したあと、少しでも自分たちと関わりのある歴史として捉えるため、横浜市に縁のある平子氏に着目し、鎌倉幕府の有力御家人であった三浦氏の支族として磯子区の平子郷に本拠地を置いて勢力を有したことを資料から発見させ、平子重経が周防（現山口県）や越後（現新潟県）の地頭になり、一族がその地に赴き勢力を広げ活躍したことを、史資料を通して考えさせたい。

通常、授業で鎌倉時代を扱う時は御恩と奉公の関係で將軍に使える御家人がいたことへの理解に留まり、その後は北条氏による執権政治から蒙古襲来（元寇）に焦点が当てられ、具体的に御家人の存在をイメージさせる機会は少ない。理由の一つに、北条氏を筆頭に三浦氏や安達氏、畠山氏のような有力御家人に比べ、一般の御家人に関する資料が少なく、その系譜や活動の様子が分かりにくいことがある。その結果、歴史は自分たちの身近な地域との関わりから乖離し、理解や想像が難解な政治史となり、歴史は覚えるだけの教科として生徒に認識されることになる。

そこで、自分たちと関わりのある地元の御家人に着目することで、鎌倉時代の学習を総括させ、発展的に学習させたい。その中で鎌倉時代の御家人が室町幕府でも勢力を維持したり拡大したりしながら、たくましく生き抜き、時代の趨勢の中で盛衰していたことを理解し、人々がたくましく生きていたことを考えさせたい。

### 3 実践計画の概要

#### (1)単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・ 鎌倉幕府の成立、元寇などを基に、武家が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解している。	・ 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化を多面的・多角的に考察し、表現している。	・ 中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜に縁のある鎌倉時代の御家人一族が、活動していたことを理解している。</li> <li>・史料から平子氏の系譜や支配していた地域を読み取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平子氏の活動や系譜について、古文書や資料から多面的・多角的に考察し、その様子を適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史料を粘り強く読み取りながら、横浜に縁のある御家人がいたことへの関心を高め、鎌倉幕府や室町幕府と御家人の関係を、主体的に追究しようとしている。</li> </ul>
--	--	--

(2) 指導と評価の計画 [2時間扱い]

学習活動と内容 (時間数) 2時間	主な資料 (◆) と教師の支援 (◇) など
<p>1 横浜ゆかりの御家人とは? <b>本時</b></p> <p>平子氏に関する資料を通じ、横浜(磯子区)に本拠地のある御家人がいたことを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆平子重経像(資料1)</li> <li>◆三浦氏系図(特別展『平子氏の西遷・北遷』P33)(資料2)</li> <li>◆平子氏系図(特別展『平子氏の西遷・北遷』P14)(資料3)</li> <li>◆平子郷略図(特別展『平子氏の西遷・北遷』P78)(資料4)</li> <li>◇資料1→2→3→4を順番に提示し、平子氏への関心を高め、桓武平氏の系譜で、磯子区の平子郷と関わりがあり、御家人として幕府の資料にも出ていることを理解させる。</li> </ul>
<p>2 鎌倉幕府滅亡後の平子氏</p> <p>前時の学習をふまえ、平子一族が周防や越後にも地頭職を得て広がり、鎌倉幕府滅亡後も周防の大内氏や越後の上杉氏と関係を築き命脈を保ったことを理解する。</p>	<p>越後平子氏関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆将軍家藤原頼経政所下文写(特別展『平子氏の西遷・北遷』P92)</li> <li>◆越後国魚沼郡・刈羽郡略図(特別展『平子氏の西遷・北遷』P99) 周防平子氏関係</li> <li>◆三浦氏系図(特別展『平子氏の西遷・北遷』P33)</li> </ul>

4 本時目標

- ・平子重経を端緒に平子氏に関するさまざまな資料から有用な情報を適切に選択し、横浜に関わりのある武士が存在し、御恩と奉公の関係に基づきながら鎌倉幕府の御家人として活動していたことを具体的に理解する。

5 本時展開

主な学習活動と内容	主な資料（◆）と教師の支援（◇）など
<p>・平子重経像を提示する。</p> <div data-bbox="156 275 786 465" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>S：お坊さん （頭を丸めているから・袈裟みたいなものを着ているから）。</p> </div> <p>・板書した名前の読み方と、何をしていた人物か予想する。</p>	<p>◆平子重経像（資料1）</p> <div data-bbox="820 275 1466 589" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【発問例】</p> <p>T：この人の職業（身分）は何だと思う。</p> <p>T：この人物 が出家する前の名前は「平子重経」といいます。</p> <p>T：なんて読むと思う。</p> <p>T：出家する前は何をしていたと思う。</p> </div> <p>◇「平子重経」は板書し、「平子」の読み方を聞く。</p> <p>※像自体は出家し沙弥西仁時のものと補足</p>
<p>・平子重経が地頭であったこと（御家人であったこと）を読み取る。</p> <div data-bbox="156 806 786 969" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>S：頼朝や地頭という字がある</p> <p>S：平子重経は御家人だったのかな。</p> </div> <p>・平子氏系図をみて気が付いたことをまとめる。</p> <div data-bbox="156 1137 786 1395" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>S：平子氏は平氏に関係があるんだ。</p> <p>S：「久良気三郎次長」と書いてある人物の横に、「此時始号平子」と書いてある。</p> <p>S：平子弥平右馬丞有長と書いてある。</p> </div>	<p>◆三浦氏系図（資料2）</p> <div data-bbox="820 761 1466 925" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【発問例】</p> <p>T：平子重経の資料から、どんな人物か読み取ってみよう。</p> </div> <p>◇内容はわからなくても、資料から読み取れる単語（頼朝・地頭など）だけでよいことを伝える。</p> <p>※平子氏が横浜にゆかりのある御家人であったことを伝え関心を高める。</p> <p>◆平子氏系図（資料3）</p> <div data-bbox="820 1160 1466 1485" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【発問例】</p> <p>T：平子重経の一族である「平子氏」ってどんな一族なのか、別の資料から考えてみよう。</p> <p>T：平子弥平右馬丞有長という人物の横に「真照寺」と書いてあるが、このお寺は今でも「磯子区」にあるんだよ。</p> </div> <p>◇Chromebook を使い、真照寺のホームページを見せる（平子有長が寺伝で触れられている）。</p>
<p>・真照寺の場所を現在の磯子区の地図から探す。</p> <div data-bbox="156 1612 786 1809" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>S：昔の地図にも真照寺がある。</p> <p>S：「平子郷」と書いてある。</p> </div>	<p>◆平子郷略図（資料4）</p> <div data-bbox="820 1612 1466 1809" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【発問例】</p> <p>T：古い地図を見て、真照寺を探してみよう。</p> <p>T：この地図を見て、気づいてほしいことがあるんだけど。</p> </div> <p>◇現在の磯子区には「久良岐公園」や「真照寺」はあるが“平子”の地名はない。</p>

<p>・平子郷と平子氏の関係について、分かったことや気が付いたことを振り返る。</p>	<p>◇横浜市と関わりのある御家人がいたことを理解し、どんな一族だったか関心を持たせる。 ◇次回、平子氏はどうなったか確認することを伝える。</p>
---	--

※単元構成・授業展開の補足

中世の武士を考える際には、土地所有の側面から捉えることも重要となる。平子氏に関係する寄進の資料として、(室町時代の文書であるが、)平子郷禅馬村と岸根村の田を宝光庵に寄進した文書がある「寶生寺円鎮田畠寄進状」(資料番号 120)や「円鎮百姓年貢銭寄進状」(資料番号 121)・「真照寺円鎮田畠讓状」(資料番号 122)であり、この資料からも「武州久良郡平子郷内禅馬之村」などが読み取れる。なぜ平子一族は寺院に土地を寄進したのか考えさせてみてよい。

寺院への寄進を考察すると同時に、本単元の導入で示した平子重経像がなぜ僧形なのかに注目させ、武士が出家する理由を考えさせてもよい。武士の出家は平子重経のみならず、平清盛や足利義満へも敷衍できる。生徒の関心が平子重経から清盛や義満に広がれば、主体的に学習に取り組む態度は深まったと評価することもできる。

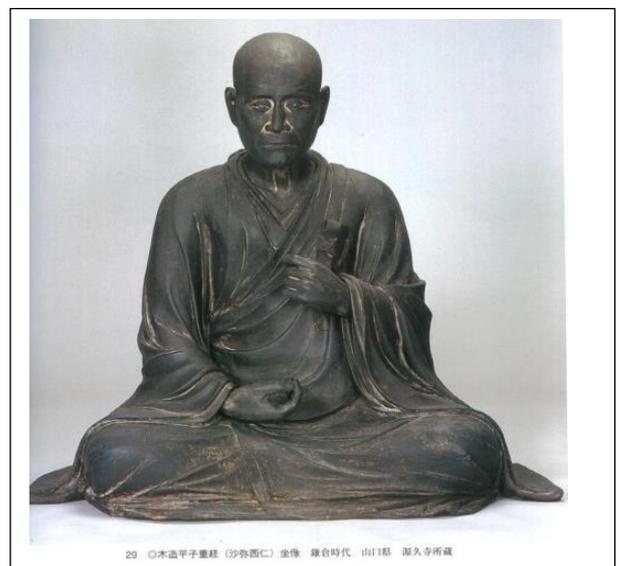
しかし、土地の寄進や武士の出家を考える際には単に仏教への帰依とともに、政治的要素を含んでいることを考慮しておく必要がある。寄進には「富の再分配」としての要素があり、御家人は富を集積する存在であり集めた富を寄進することで地域を支え、社会を再生産する機能を果たしていた側面もある。同時に、寄進することでその地域における寄進者の権力維持に大きな影響力があったと考えられる(湯浅治久『中世の富と権力 寄進する人びと』(歴史文化ライブラリー497 吉川弘文館 2020年))。出家にも過分に政治的思惑が介在し、出家したからといって政治への発言権や影響力が消滅したわけではない。こうした背景も含めて寄進や出家を考えさせると、より深い歴史認識となる。

また、本単元は鎌倉時代を一通り学習した後や、鎌倉・室町時代(資料1)平子重経像(資料番号 29)代(応仁・文明の乱前まで)のまとめ学習としても活用でき、桓武平氏の流れを称する平子氏が平子郷周辺を所領できた要因に着目することで武士の誕生と発展を考える導入としても活用することができる。

「横浜ゆかりの御家人～平子氏の姿～」の授業で使用した資料

平成 15 年度特別展 図録「鎌倉御家人平子氏の西遷・北遷」

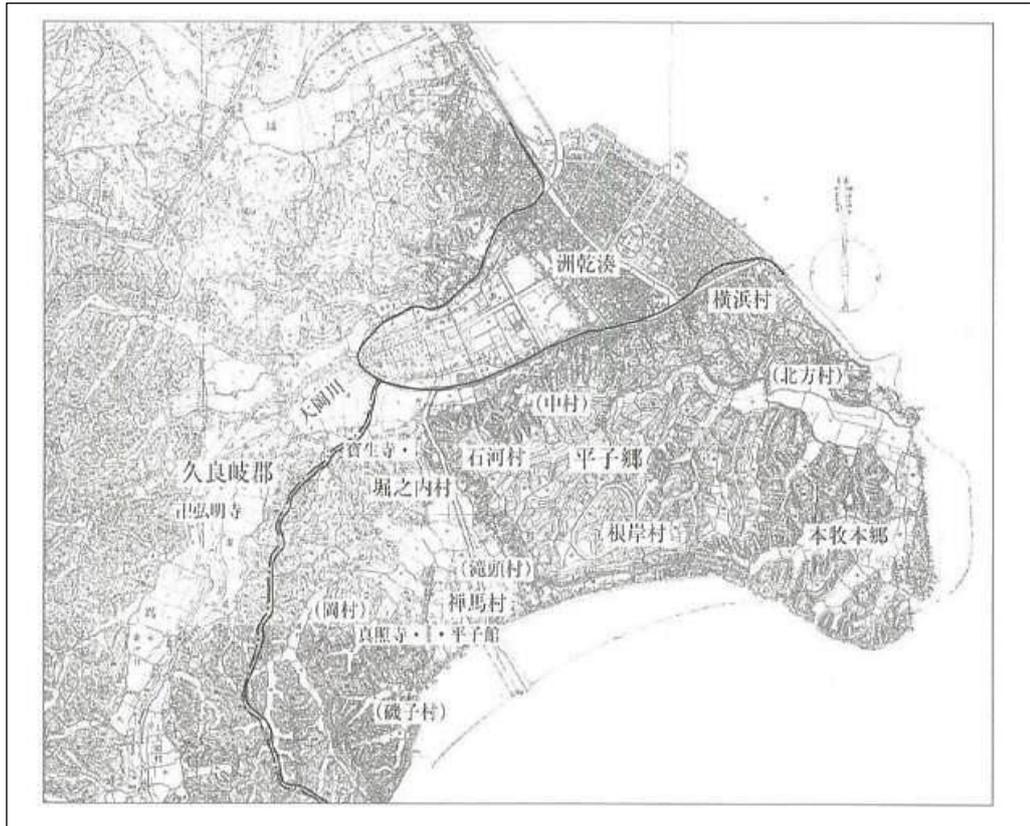
(資料 1)平子重経像(複製) (市歴博常設展示)



29 ©木造平子重経(沙弥西仁)坐像 鎌倉時代 山田邦 源久寺所蔵



## (資料 4)平子郷略図



### 6 博物館との連携（参考文献など）

博物館所蔵資料には各時代と繋がる資料が数多く収蔵され、教科書や資料集で触れられる資料以外にも生徒の知識で一部でも読み取れる史料も多く、歴史を身近に感じて考える要素に溢れている。

以下参考になる冊子である。

- ・【横浜市歴史博物館発行の冊子】『特別展 鎌倉御家人 平子氏の西遷・北遷』
- ・『磯子の史話』（1978年）磯子区制五〇周年記念事業委員会

### その他 【博物館より参考事項】

- ・「平子」の地名は無いが、南区に「平楽」があり、現在は「へいらく」と読む。かつては「たいらく」の可能性もある。ただし根拠は見つけれられていない。
- ・真照寺の毘沙門像は平子有長の姿を模したと伝わるので、(近くの学校であれば、)この単元の学習の折り拝観できるとよいが。(伝わっている造立年は寿永元年(1182年)なので鎌倉開府以前となる。)
- ・平子氏は富士野の巻狩りのエピソード「十番切り」に登場し、負傷する。生徒には「曾我兄弟の物語」を紹介することや、「巻狩り」とはどのようなイベントか、調べる活動を取り入れてもよいのでは。
- ・「巻狩り」は頼朝が奥州を平定し、初の上洛後に行うが、「富士野」の他に「那須野、三原野」でも実施。すなわち、その範囲が当時の頼朝の勢力範囲だったことになる。(『頼朝と街道』木村茂光、吉川弘文館、2016)
- ・「武士が勢力を拡大して、たくましく生きた」という点の学習について  
平子重経が仁保庄地頭職を得たことは、当時本拠地から遠く離れたところに恩賞地を受けることはよくあり、平家から没収した地だったため、多くは関西方面にあった。こうして関西方面に土地を得て向かう御家人たちを西遷御家人という。平子氏以外には、安保(あぼ)氏、熊谷氏などの資料が手に入りやすい。(→井上聡「御家人の所領経営をめぐる」『書物学 20号 追憶のサムライ』勉強出版、2022)